

2022年度

第4四半期決算

期間：2022年7月1日～9月30日

2022年11月17日ドイツ・ミュンヘン

2022年度も優れた業績を達成 - 好調を維持して 第4四半期を終了

シーメンスAGのローランド・ブッシュ代表取締役社長兼CEOは、「シーメンスは2022年度も優れた業績を上げ、インダストリービジネスにおいては100億ユーロを超える過去最高の利益を達成しました。当社の戦略を着実に実行し、市場シェアを獲得し、価値の高い成長を実現しています。デジタル事業の売上が予想を上回る伸びを示すなど、当社のハードウェアおよびソフトウェア製品やサービスに対する旺盛な需要が続いています。厳しい環境に置かれた1年でしたが、当社の社員は素晴らしい貢献をしてくれました」と述べています。

シーメンスAGのラルフ・P・トーマス取締役CFOは、「シーメンスは常に高い業績を上げている企業です。インダストリービジネスの利益が過去最高を記録したことに加え、全体で82億ユーロのフリーキャッシュフローを生み出し、これも2022年度として非常に良い水準となりました。また、好調な業績を受け、株主の皆様へも利益を還元いたします。1株あたり4.25ユーロへの増配、それに伴う4.2%の配当利回り、自社株買いの加速、さらに発行済株式数の減少により、当社は今後とも非常に魅力的な投資先であり続けます」と述べています。

- 第4四半期の売上高は前年同期比18%増の206億ユーロ、受注高は同14%増の218億ユーロで、出荷受注比率（BBレシオ）は1.06。
- 為替変動とポートフォリオの影響を除いた前年同期比では、売上は12%増、受注は7%増。
- インダストリービジネスの利益は38%増の32億ユーロ、利益率は16.2%、インダストリービジネスの全分野で増益。
- 当四半期の純利益は、好調なインダストリービジネス、およびシーメンス・ロジスティクスの郵便・小包取扱事業の売却益により、2倍以上の29億ユーロ。これに対応する基本1株当たり利益（EPS）は3.39ユーロ、企業買収時の取得原価配分前EPS（PPA前EPS）は3.59ユーロに上昇。
- 継続事業および非継続事業からのフリーキャッシュフローは35億ユーロ。
- 2022年度通期の業績も好調であり、受注高は25%増の890億ユーロ、売上高は16%増の720億ユーロ、BBレシオは1.24。前年度比では、受注高は17%増、売上高は8.2%増と、当社のガイダンスを上回る伸びを記録。
- 2022年度のインダストリービジネスの利益は前年比17%増で過去最高の103億ユーロ、純利益は44億ユーロ、これに対応する基本EPSは4.65ユーロ、さらにPPA前EPSは5.47ユーロであり、2022年度第3四半期に発表したガイダンスを達成。基本EPS、PPA前EPSともに、2022年第3四半期にシーメンス・エナジー株式会社株式について計上した、現金支出を伴わない減損に関連する1株当たり3.37ユーロの負担が含まれている。継続事業と非継続事業からのフリーキャッシュフローは82億ユーロで、2021年度の記録の水準に匹敵するもの。
- 1株当たりの配当金を前年の4.00ユーロから4.25ユーロに増額することを提案。

SIEMENS

シーメンス

(単位：100万ユーロ)	第4四半期		増減 (%)	
	2022年度	2021年度	実績	比較
受注	21,817	19,070	14%	7%
売上	20,573	17,444	18%	12%
利益 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	3,159	2,291	38%	
内：退職手当	(44)	(55)		
利益率 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	16.2%	14.0%		
退職手当を除く	16.4%	14.3%		
継続事業からの利益	2,915	1,269	130%	
内：退職手当	(65)	(86)		
非継続事業からの利益 (税控除後)	(2)	60	n/a	
純利益	2,913	1,330	119%	
基本1株あたり利益 (単位：ユーロ)	3.39	1.45	134%	
PPA前のEPS (単位：ユーロ)	3.59	1.61	123%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	3,451	3,776	(9)%	
キャッシュ・コンバージョン・ レート	1.18	2.84	(58)%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	24.6%	12.4%		

- ロシア・ウクライナ紛争に起因するエネルギー不足や供給懸念、高いインフレ率、新型コロナウイルスのパンデミックによる影響を受け、複雑なマクロ経済環境が続くも、シーメンスの主要市場の多くで成長機会が存在。一方、サプライチェーンのリスクに関係する大きな混乱を回避すべく引き続き取り組んでいるが、この混乱には緩和の兆しが見られる。
- スマートインフラストラクチャーとSiemens Healthineersの受注が好調、モビリティの大口受注は前年同期に比べ減少
- デジタルインダストリーズとスマートインフラストラクチャーの2桁成長に牽引され、インダストリービジネスの全分野で大幅増収。
- 為替変動の影響により、受注高と売上高についてそれぞれ8%ポイント伸び率が増加する一方、ポートフォリオの影響により、受注高は1%ポイント、売上高は2%ポイント伸び率が減少。
- 利益については、インダストリービジネス全部門で増益となり、特にデジタルインダストリー部門が最も増益に貢献し、かつ伸び率も最大であった。Siemens Healthineersとスマートインフラストラクチャーも大幅な増益を達成。
- ポートフォリオカンパニーでは、シーメンス・ロジスティクス郵便・小包取扱事業の売却益11億ユーロ（税引前）を計上。連結財務諸表作成における調整額にはロシア関連の影響額3億ユーロ（税引前）が含まれる。
- 当期純利益は、ポートフォリオカンパニーにおける売却益およびインダストリービジネスの大幅な増益により、前年同期比で2倍強に拡大
- スマートインフラストラクチャーとデジタルインダストリーからの大幅な現金収入により、インダストリービジネスが2021年度第4四半期の高水準をわずかに上回る39億ユーロに及ぶフリーキャッシュフローを生み出す。インダストリービジネス以外では納税額の増加などにより現金支出が増加。
- 2022年9月30日現在の年金引当金および類似債務は23億ユーロに増加（2022年6月30日時点では19億ユーロ）、増加要因は主に、インフレによって将来の年金支払額が増加したことによるものだが、割引率の上昇により一部相殺された。
- 当期純利益の大幅な増加などにより、ROCEはほぼ倍増